

## 第3回 サイバーポート進捗管理 WG（港湾インフラ分野）議事概要

### 【意見交換】

#### （委員）

- ・ 港湾管理者という立場でいくと利用する場面は限定されるため、こういったデータをどのように利用していくのかというところはもう一度検討いただきたい。特に工事及び委託業務の成果品等の設計資料については、施設の補修・改良などを行う際に必要な情報であり、現在は直轄事務所に依頼して、1ヶ月弱かけて入手しているので、資料公開とは別に資料の共有手段として見られるようにしていただきたい。
- ・ 工事を受注した際に周辺施設の図面、構造計算書、さらにボーリングデータなどがあるといい。今後BIM/CIMの義務化などもあり、こうした情報があれば更なる安全性、品質の向上にも繋がるため公開の検討を行っていただきたい。

#### （事務局）

現状の縛りにより非効率となっているところもあるかと思うので、実運用の中で対応を検討させてもらいたい。

貸与物件の設定をする際に、その施設以外の周辺施設の情報を含めることでシステム的には対応できると思われる。BIM/CIMシステムとの連携についても留意してまいりたい。

#### （委員）

- ・ 開発時における分担金を負担してきているが、その内訳などを明示されていない。今後、大規模改修における費用負担なども想定されることから、透明性を確保いただきたい。港湾管理者による予算要求にも関わるため秋口までには負担額をいただきたい。

#### （事務局）

不透明となっているところは大変申し訳ない。今後は維持管理の段階となるので、示している金額規模がある程度続く。大規模改修時などは前広に相談しながら進めるようにしたい。

#### （委員）

- ・ 移動端末による点検システムを紹介いただいたが、点検ガイドラインなどをそのまま做って点検を実施していくのは大変な苦労がかかる。そうした点検ガイドライン自体の考え方を含めて配慮いただきたい。
- ・ 移動端末による入力は、入力途中となっている情報と、確定して登録した情報とが分かるようなシステムとしてもらいたい。
- ・ 点検診断システムが無駄な点検を助長するものとならないよう、運用に配慮していただきたい。

#### （事務局）

入力を確定させて維持管理情報データベースへ登録を行うには事務所での登録確定作業を挟むことも可能な仕様になっている。

本WGとは別となるが、維持管理のガイドラインなど含めた見直しを行う検討会を開催しているところであり、そうした検討会とも本件取り組みを連携していく。

(座長)

入力途中で一旦セーブしたいとも思うので、試験運用の中で意見をききながら取り入れてもらいたい。

#### (委員)

- ・ 3月に説明会を実施していただき、動画も共有していただくとのことだが、4月以降で体制も大きく変わるため、受注者への登録方法やその際のコスト負担や、ユーザ毎に異なる使い方を例示した説明会をお願いしたい。合わせて、本WGとは別のことは承知しているが、管理分野の説明会も開催してもらいたい。

(事務局)

実務作業場面などに合わせた動画として、閲覧しやすい形にするとともに、4月以降も閲覧できるようにし、利用シーンやユースケースに応じた説明には留意してまいりたい。業界関係向けにも幅広く説明する予定である。なお、受注者権限での登録であれば費用負担はない。

#### (委員)

- ・ NACCS連携としてバースウィンドウの追加を説明されているが、当県での船舶の調整は早い者勝ちではない。各港湾管理者においても対応は異なるかと思う。そうした運用等の予約段階と確定段階における工夫などいただきたい。

(事務局)

バースウィンドウ画面での船舶の着岸申請を行ってもシステムでの自動確定とはならず、バース調整会議などにより決定後などに確定されていく運用イメージであるが、現在利用いただいている港湾での運用事例なども共有できるようにしていきたい。

(座長)

実装においては、各港湾管理者と運用方法の調整が必要かと思われるので、サイバーポート（港湾管理分野）担当ともすりあわせをしていただきたい。

#### (委員)

- ・ 現在、能登半島地震の対応として、復旧断面の検討などする際に、被災前はどうかを知る必要がある。そのため、維持管理情報についてはタイムリーな更新となるようルール作りをお願いしたい。

(事務局)

いかに最新のデータが入っているかという状況作りが大切だと認識しているため、引き続き検討してまいりたい。

#### (委員)

- ・ 多岐にわたる情報を扱うが、港湾管理者がメインとなるかと思うので、使う方々の場面に合わせた使い勝手への意識と、港湾管理者へ有用事例をまとめて共有いただくようお願いしたい。

(事務局)

それぞれのユーザに合わせた使い方のヒントとなるように積み重ねていきたい。

### (委員)

- はじめのころはこうしたユースケースが考えられると提示していただいたが、構築が進んだいま、改めてまとめていただきたい。
- 他にも多くあるデータベースとどう違うのかという意見を聞いたりもするので、それらの使い分けも整理していただきたい。
- 港湾管理者にとって使い方は2つに分かれる。一つは維持していくために情報を更新するためのデータ入力であり、もう一つは活用していくこと。維持していくのは苦労がかかることなので、複数のシステムへの二重入力の省略には引き続き取り組んでもらうことと、普段の業務の中で自然とデータが更新されるような工夫を行っていただきたい。
- また、活用した良い事例も必要だと思うが、港湾管理者から提案していくことは難しいと思うので、港湾局側で是非示してもらいたい。
- 利用者として、国の職員もいるかと思うが、サイバーポートは最新の情報が入力されていないと活用できないので、港湾管理者には負担とはなるかもしれないが、何年間も情報が更新されていない場合はWARNINGが表示されたり、メールで連絡が飛ぶというような工夫もあるかと思う。
- そもそも点検の合理化の話もあったが、サイバーポートへの入力だけでなく、点検のあり方も意見出しをしていただくと、別途行っている維持管理に関する検討会でも反映させていくことができるかと思う。

### (小野座長)

- ユーザをイメージして実際に使える機能を作り込んでいくことが必要である。港湾管理者にはこれまで費用の負担をいただいているところでもあるので、そうした意見を出して、サイバーポートを使えるシステムへと育てていただきたい。
- 事務局でこれまで考えて構築を進めてきていただいているがラストワンマイルというように、最後の一步だけが届かないということもあるので、そこは半歩でもいいのでユーザ側からも取りに来てもらえるよう工夫をいただきたい。
- ビジネスに繋がるプラットフォームをと最初の頃に言っていたところもあるので、今回APIの検討もしていただいているが、スタートアップ向けなどビジネスとして活用できるような情報発信にも繋がることを望む。